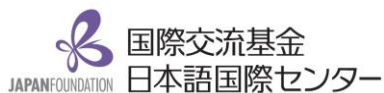


会話の教え方

Unit I ^{じゅんび}準備 Part I 生活の中の「会話」

1. はじめに

あなたは、毎日の生活の中でどんな^{ばめん}場面で、どんな人^{あいて}を相手に、どんな^{もくてき}目的で、会話をしているでしょうか。会話活動^{かつどう}の種類^{しゅるい}や会話力^{りょく}をどのように考えていますか。

今回の^{もくひょう}目標: 会話や会話力について知ることです。

このパートのキーワード

会話の^{もくてき}目的、カテゴリー、Can-do、^{か だい すい こう}課題^{りょく}遂行、会話力、レベル

2. 生活の中の^{れい}会話例

私たちは、毎日、たくさんの会話をしています。どんな目的で会話しているでしょうか。

生活の中の会話例を見てみましょう。

- ・ ^{いんしょくてん}飲食店で料理や飲み物^{ちゅうもん}を注文します。
- ・ 友だちと^{りょこう}旅行をするために、行き先や日程などについて話し合います。
- ・ ^は歯が痛くなったので、近所^{きんじょ}の歯医者^{は いしゃ}はどこがいいか、友だちに聞きます。

- ・ 友だちと一緒に料理を作るとき、細かい手順について友だちに指示をします。
- ・ 職場の会議で新商品について事実確認をしたり、自分の意見を述べたりします。
- ・ インタビューで、新商品開発のきっかけや苦労話をします。

この 6 つの会話例から分かるように、「会話」とは話し手と聞き手の間の口頭でのやりとりを指します。

あなたの生活の中の会話と同じものがありましたか。

【タスク1】上の例を表に整理してみましょう。

場所	相手	目的
飲食店	店員さん	料理や飲み物を注文すること
どこでも	友だち	旅行の行き先や日程などの話し合い
家の近く	()	()
家	友だち	()
()	()	()
職場	()	()

3. 「会話力」とは

会話力について、JF 日本語教育スタンダード (JF スタンダード) を使って見てみましょう。

JF スタンドアードは、日本語教育の目標設定や能力評価を考へるために作られたツールです。日本語を使って、何がどのようにできるかという「課題遂行能力」を目標の一つにしています。「課題」というのは、会話について言う、会話をする目的のことです。そこで、「会話力」とは、会話の目的を達成する力だと言えます。

JF 日本語教育スタンダード : <https://www.jfstandard.jp/go.jp/>

【タスク2】 A さんの気持ちを考へながら、次の会話例を読んでください。A さんが話を始めた目的はなんでしょう。

会話例:

A: B さん、お休みの日は、どう過ごしていますか。

B: まず、そうじや洗濯をして、それから散歩に出かけることが多いです。

A: そうですね。ところで、日本料理は好きですか。

B: ええ、好きです。てんぷらなどおいしいと思います。

A: カラオケをやったことがありますか。

B: ええ、歌うことが好きなので、カラオケも大好きです。

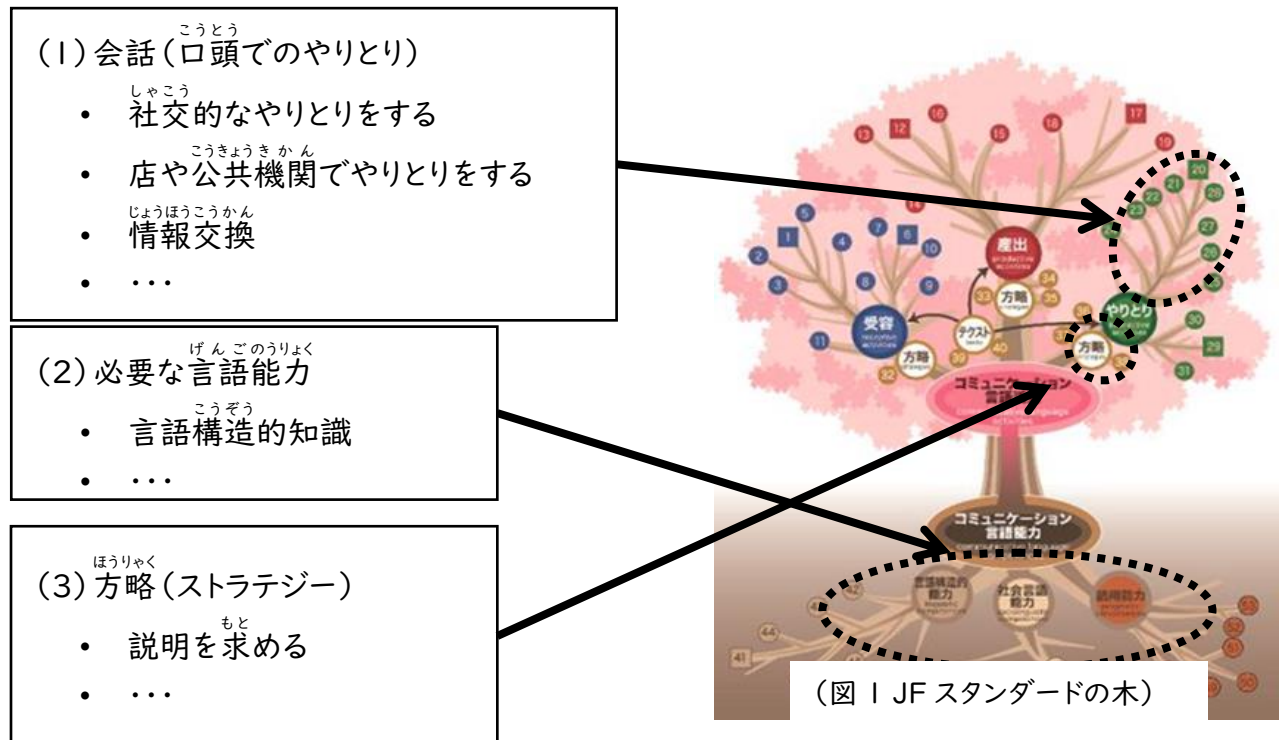
A: じゃ、日曜日に日本人の友人のうちにパーティーがあるんですが、いっしょに行きませんか。カラオケもあるそうですよ。

B: ああ、いいですね。ぜひ。

4. 「JF スタンダードの木」と会話(口頭でのやりとり)

では、会話は、JF スタンダードではどのように取り扱われているかを見てみましょう。

「JF スタンダードの木」で見てください(図1)。



まず、木の枝の部分を見てください。緑色の「やりとり」と書いてあるところがあります。JF スタンダードでは、会話のことを「口頭でのやりとり」と呼んでいます。

緑の「やりとり」の上に緑の番号があります。会話活動のカテゴリー、つまり、会話活動の種類になります。

(表1 会話のカテゴリー)

やりとり	20	口頭でのやりとり全般
	21	母語話者とやりとりをする
	22	社交的なやりとりをする
	23	インフォーマルな場面でやりとりをする
	24	フォーマルな場面で議論をする
	25	共同作業中にやりとりをする
	26	店や公共機関でやりとりをする
	27	情報交換する
	28	インタビューする／受ける

20 番の「口頭でのやりとり」

ぜんぱん 全般」から、28 番の「インタ

ビューする/受ける」までです。

ほかに、「方略」と書いてあ

る白い○があります。「方略」

とは、会話をスムーズに行うの

(表2 方略のカテゴリー)

方略	36	発言権を取る(ターン・テイキング)
	37	議論の展開に協力する
	38	説明を求める

に必要なストラテジーです。36

番から 38 番までです。

会話活動をカテゴリーに分ければ、会話の目的を見ると、便利になります。

ここで、さきほど^あ挙げた6つの会話例を JF スタンドールのカテゴリー別^{べつ}に分けてみましょう。

それぞれどれに^あ当たるでしょうか。

① 飲食店での注文は、26 の「店や公共機関^{こうきょうきかん}でやりとりをする」というカテゴリーになります。

② 旅行の行き先や日程などについての友だちとの話し合いは、23 の「インフォーマルな場面で議論^{ぎろん}する」というカテゴリーになります。

③ 近所の歯医者^{しやく}の場所や様子について友だちに聞くのは、27 の「情報交換する」というカテゴリーになります。

- ④ 友だちと一緒に料理を作るときの指示は、25 の「共同作業中^{きょうどうさぎょうちゅう}にやりとりをする」というカテゴリーになります。
- ⑤ 職場の会議でのディスカッションは、24 の「フォーマルな場面^{ぎろん}で議論する」というカテゴリーになります。
- ⑥ インタビューは 28 の「インタビューする/受ける」というカテゴリーになります。

答えは下の表 3 の右の数字を見てください。

(表 3 会話のカテゴリー)

やりとり	20	口頭でのやりとり全般	
	21	母語話者とやりとりをする	
	22	社交的なやりとりをする	
	23	インフォーマルな場面でやりとりをする	②
	24	フォーマルな場面で議論をする	⑤
	25	共同作業中にやりとりをする	④
	26	店や公共機関でやりとりをする	①
	27	情報交換する	③
	28	インタビューする/受ける	⑥

『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』

<https://www.jfstandard.jpf.go.jp/publicdata/ja/render.do>

【タスク3】 あなたの日常生活の中での会話はどのカテゴリーに分けることができますか。

上の表 3 に当てはまるものがあれば、○を付けてください。

5. 会話の目的と「Can-do」

JF スタANDARDでは、さきほど取り上げたカテゴリーの中に、それぞれ日本語の^{じゅくれんど}熟練度を^{しめ}示す「～できる」という^{かたち}形の文、Can-do があります。

JF スタANDARDにもとづいて作られた「みんなの Can-do サイト」というサイトは、いろいろなカテゴリーの Can-do が入っています。

みんなの Can-do サイト : <https://www.jfstandard.jp/ja/cando/top/ja/render.do>

(*登録していない場合は、登録する必要があります。)

さきほど生活の中の会話例の一つで、飲食店での注文を「みんなの Can-do サイト」で^{さが}探しました。

キーワードは「注文」、カテゴリーは「店や公共^{こうきょうきかん}機関でやりとりをする」です。

出てきたのは7件^{けん}ありますが、その中の2件を例として出して、比べてみましょう。

一つは「飲食店などで店員に、料理や飲み物などを短い簡単な言葉で注文することができ^{きる}」と書いてあります。

もう一つは「飲食店で、サンプルやメニューの写真を指差しながら、料理や飲み物を、「これをください」などと簡単な言葉で注文することができる」と書いてあります。

どちらも飲食店での料理や飲み物の注文ですが、どう違いますか(表4)。

(表4 飲食店での注文の Can-do)

キーワード:「注文」 カテゴリー:「店や公共機関でやりとりをする」	
	Can-do 「みんなのCan-doサイト」より
◆飲食店などで店員に、料理や飲み物などを短い簡単な言葉で注文することができる。	
◆飲食店で、サンプルやメニューの写真を指差しながら、料理や飲み物を、「これをください」などと簡単な言葉で注文することができる。	

6. Can-do の^{こうせい}構成とレベル

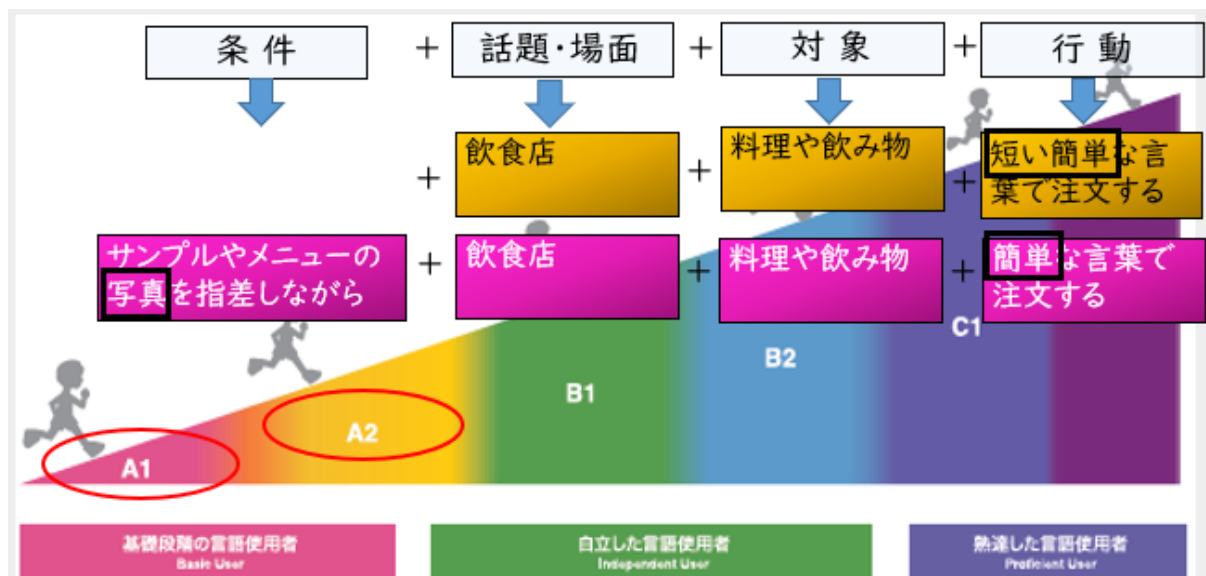
さきほどの質問に答えるには、Can-do の^{こうせい}構成を見る必要があります。

Can-do は、多くの場合、^{じょうけん}条件、^{たいしょう こうどう}話題・場面、対象、^{ようそ}行動という要素が入っています。これにもとづいて、Can-do をよく読めば、各カテゴリーとレベルの^{きじゆつ}記述の^{とくちょう}特徴が^{はあく}把握しやすくなります。

さきほどの二つの飲食店での注文の Can-do を比べてみましょう(次のページの図2)。

まず、一つ目の Can-do ですが、条件は特にありません。場面は「飲食店」です。対象は「料理や飲み物」です。行動は「短い簡単な言葉で注文する」ことです。

それから、二つ目の Can-do ですが、条件は「サンプルやメニューの写真を^{ゆびさ}指差しながら」です。つまり、言葉だけではまだうまく^{つた}伝えられないから、写真という^{ほじょ}補助的な^{しゅだん}手段が必要だということです。



(図2 Can-do の構成とレベル)

場面は「飲食店」です。対象は「料理や飲み物」です。行動は「簡単な言葉で注文する」とです。

このように、4 つの要素^{ようそ とくちょう}の特徴的な表現、たとえば、ここでは、「写真」、「簡単」、「短い簡単」という表現を見ることで、Can-do のレベルを理解することができるのです。

JF スタンドでは、日本語のレベルを 6 つに分けています。A1 から C2 までです。

この二つの Can-do のレベルですが、どちらが高いでしょうか。

答えは黄色^{きいろ}いほうは A2 レベルで、ピンクのほうは A1 レベルです。黄色いほうが高いです。

つぎに、もう少し詳しく比べるために、「みんなの Can-do サイト」を使って、「パーティー」というキーワードと「社交的なやりとりをする」というカテゴリー^{けんさく}で検索しました。

A1 から B2 まで 9 件ありました。その中からレベルごとに 1 件ずつ取り出しました。同じ

パーティーという場面で、レベルによって、構成要素^{こうせいようそ}がどう変わるか見てみましょう(表5)。

(表5 パーティーという場面での Can-do)

B2	同窓会のにぎやかな立食パーティーなどで、 <u>学生時代のことや</u> <u>お互いの近況</u> 、 <u>共通の友人の噂話</u> など、 <u>さまざまな話題</u> について 長い会話に参加することができる。
B1	パーティーや新しいサークルなどで初めて会った人に <u>話しかけ</u> 、 <u>趣味や仕事など身近な話題</u> について質問したり、 <u>質問にある程度</u> <u>詳しく答えたりして</u> 、 <u>会話を続ける</u> ことができる。
A2	パーティーや新しいサークルなどで初めて会った人と、 <u>趣味や暇</u> <u>なときにする</u> ことについて、 <u>短い簡単な言葉で話す</u> ことができる。
A1	パーティーやイベントで初めて会った人に、 <u>名前、出身、仕事など</u> <u>をたずねたり、答えたりする</u> ことができる。

一番下の A1 は、「名前、出身、仕事などをたずねたり、答えたりすることができます」。つまり、単語だけで聞いたり、答えたりするようなイメージです。会話も一問一答式^{いちもんいつとうしき}です。

一つ上の A2 は、一問一答式ではなく、自分から「短い簡単な言葉で話す」ことができます。そして、話題も「趣味や暇^{ひま}なときにする」というように、A1 より増えています。

さらに一つ上の B1 レベルは、進んで「話しかけ」たり、「会話を続け」たりすることができます。しかも質問には「ある程度^{くわ}詳しく」答えることができます。話題も「身近な^{みぢか}話題」なら何でも OK になります。

それから B2 は、今度は「学生時代の^{たが}こと」、「お互いの^{きんきょう}近況」、「共通の友人の^{きょうつう}噂話^{うわさばなし}」など、「さまざまな話題」について、しかも「長い会話に参加する」ことができます。

このように、レベルが上になればなるほど、会話の中でできることが多くなることが分かります。

7. まとめ

最後に、まとめてみましょう。

今回の授業では、生活の中の会話例を通して、会話のカテゴリーや目的、会話力とそのレベルについて考えました。

具体的には次のようなことをいっしょに見てきました。

- ◆ 私たちは、生活の中でいろいろな場面で、いろいろな人を相手に、いろいろな目的を持って会話をしています。
- ◆ JF スタンドでは、会話のレベルを 6 つに分けています。
- ◆ 「会話力」とは、会話の目的を達成^{たっせい}できる能力、つまり課題^{かだい}遂行^{すいこう}能力^{のうりよく}のことです。
- ◆ 一つ一つの会話の目的は「Can-do」で示すことができます。

以上で今回の勉強を終わりにします。

■ このパートの参考文献と参考サイト

- 国際交流基金 (2007) 『話すことを教える』 (国際交流基金 日本語教授法シリーズ6)
ひつじ書房
- 「JF 日本語教育スタンダード」 <https://www.jfstandard.jp/standard/top/ja/render.do>
- 「みんなの Can-do サイト」 <https://www.jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>
(^{よう}要ログイン)

■ タスクの答え

【タスク 1】

場面	相手	目的
飲食店	店員さん	料理や飲み物を注文すること
どこでも	友だち	旅行の行き先や日程などの話し合い
家の近く	(友だち)	(近所の歯医者者の情報を知ること)
家	友だち	(料理の手順を指示すること)
(職場の会議)	(同僚たち)	(新商品について事実確認したり、自分の意見を述べたりすること)
職場	(記者)	(新商品開発のきっかけや苦勞を話すこと)

【タスク2】

目的は、日本人のうちで行われるパーティーに B さんを誘うことです。ほかに、B さんについて知りたいという目的もあります。

【タスク3】(答えは自由)